

# 広田っ子

～本物の笑顔が輝く広田小～

佐世保市立広田小学校 学校だより  
第10号 令和5年2月22日(水)  
文責 井上 文典

「本物の笑顔」に簡単アクセス  
広田小HP QRコード



## 2月 白梅、紅梅の香りを感じながら学年末へ向かいます

水仙の香りから、梅の花の香りへと変わり、季節が少しずつ春へと近づいてきているように感じます。まだまだ余寒の厳しい日もありますが、子どもたちは元気に登校しています。

さて、2月も中旬を過ぎ、子どもたちは学年末を意識するようになってきています。今の学級の友達や先生との時間が有限であり、「かけがえのない時間」であることを感じている子もいます。この感受性はとても大切だと思います。本年度、最後の授業参観でもその一面を見ていただくことができたのではないかと考えています。

感謝の心や、その言葉は「かけがえがない」を感じる体験をきっかけとして育つことがあります。3月の卒業式や修了式、離任式を前にこの「かけがえがない」をあたたかい体験や言葉を通して、たくさん感じさせたいと思っています。

この文章を綴っている今、各教室からは「ありがとう集会」の練習が行われ、別れの言葉等の精一杯の声が響いています。徐々にではありますが、小学校らしい声や音が広がってきています。コロナは、少しずつではありますが落ち着いてきています。マスクではなく素顔で生活できるまであと少しのところまで来ているようです。子どもらしい声が広がる日が早く来てほしいと願っています。



## 6年生が5年生のために

6年生が「6年生になるためのワークショップ」を5年生のために、6年校舎で実施してくれました。

自分たちだけでプレゼン等をつくり、一人一人が、堂々と6年校舎における自分たちの頑張りを、誇りをもって伝えてくれました。

限られた準備の時間の中、目的を達成するための役割を自分たちで考え、小グループでプレゼンやパンフレットを作成しました。

これからの予測困難な時代は、個人の課題解決能力に加え、チームで課題解決をしていく力が必要になると言われています。本校の6年生は、中学校の校舎で学ぶという特性を生かし、教師の指導の下、自立的に「共有」「分担」「対話」「議論」「決断」「協働」の経験を積んでいます。今回の取組は、これまでの学びの集大成の一つになったと考えています。

今回の取組を終えて、6年生からは「5年生に説明できてよかったです」「先輩として役に立ててよかったです」等の感想がありました。また、5年生からは「6年生校舎へ行くのは少し不安だったけど、安心しました」「6年生校舎へ行くのが楽しみにになりました」という感想がありました。

コロナ禍にあっても工夫をしながら質の高い表現活動に取り組んでくれた6年生を誇りに思います。



新1年生入学説明会の校長あいさつの中で、それぞれの個性に応じた自立と、身近な大人の関わりについて少しお話をしました。(お配りした資料を記載しています)

「本物の笑顔」のために  
～自転車の補助輪はずしから考えること～



はじめて自転車を買ってもらったとき、その自転車には、後ろのほうでガラガラ音がする小さなタイヤがついていました。「補助輪」です。はじめは買ってもらった新しい自転車を自慢げに乗っていました。ガラガラ ガラガラ音を響かせながら・・・しかし、ある時、気づきます「これではいけない」「お兄ちゃん、お姉ちゃんのように乗りたい」と。自立して乗れるようになるまでは、繰り返し、繰り返し練習します。時にはひざを擦りむき、痛みを感じながら、一生懸命練習します。初めて自立して乗れたとき、最高にうれしかったことを覚えています。

〈子育ての目的〉

親と子どもとの関係を、乳児期は「肌身はなさず」、幼児期は「手をはなさず」そして児童期を「心はなさず」と表現することがあります。これは、子どもの成長に応じた親のかかわりを表現した言葉で、子育ての補助輪はずしのステップを表した言葉です。

自転車は補助輪をつけたまま走っていると、怪我もしませんし、上手く乗っているような気にもなります。しかし、補助輪が付いたままでは、スピードは出ませんし、遠くへもいきません。本当の楽しさや厳しさを味わうことはありません。子どもと親の関係をこの自転車の補助輪と考えても、少しずつ親の助けを減らしていかなければ、山あり谷ありの自分の人生を自分の力で乗り越えることはできません。

「補助輪はずし」・・・タイミングこそそれぞれの個性で異なりますが、子育ての大切なテーマであり、目的です。

〈教師も・・・〉

子どもたちが困っているとき・・・もちろん教師は助けます。しかし、すぐに助けるか、グッとこらえて、自分の力で立ち上がり、解決するのを待つか・・・教師の腕の見せどころです。

我々教師は教育の目的を意識しています。教育の目的は「人格の完成」です。そのためには、個に応じた「自立」を促し、実現させていくことも大切な柱のひとつだと考えて日々実践しています。しかし、かわいい子どもたちを目の前にすると、つつい手を貸しすぎることもあります。時々自分たちの実践をふり返り、反省しているところです。

広田小の子どもたちは素直で、やさしく、良い子たちです。しかし「タフに生きていけるか」と問われれば課題があります。失敗やトラブルを恐れず、自分の力で「なんとかする！」というたくましい子にしていくために、学校・家庭・地域が「子育て・教育の目的」を意識し、強くたくましく、そして他者への優しさ（想像力）をもった人に育てていきたいと思えます。

晴れの日も、雨の日も、雪の日も

広田っ子を見守る地域のみなさんの心を感じながら・・・今日も感謝

校長 井上 文典